



高井 洋一 議員

## デマンドタクシーは利用者には喜ばれているか

### 問

- ①稼働率と利用率は。
- ②高齢者の利用に際し運転者の乗降の介助、手荷物の積み下ろしを含め、安全確保は。
- ③改善すべき課題への今後の対応は。

### 答

総務部長

①運行が開始された昨年10月は、1日当たり平均22人の利用が、今年5月は30人を超える方が利用している。

②デマンドタクシーは、乗合により効率的に利用者を目的の地まで運ぶ交通機関であり、原則運転手

は乗降の際の介助や荷物の積み下ろしは手伝わないうことにしている。

しかしながら、利用者の安全確保は運行上最も配慮すべきことであり、運行事業者との情報交換、情報共有を密にし、今後の対応について協議していきたい。

③登録者の方を対象に行ったアンケート調査では、さまざまな要望、要請が出されており、対応可能なものから順次改善を図っている。



デマンドタクシー「助かります」

### 答

まちづくり創造課長

③例えば、予約可能な時間帯の変更や乗降場も変更追加を行っている。

## 子ども・子育て新システムへの認識は

### 問

野田民主党政権は、社会保障と税の一体改革の柱の第一に子ども・子育て新システムを挙げています。株式会社への参入や保護者との直接契約など多くの問題がある。これらについて、市長の認識は。

### 答

市民福祉部長

この新システムの大きな柱は、所管も制度も異なる保育所と幼稚園を一体化する総合こども園を創設し、これまでの保育所や幼稚園の利用の仕組みや給付の仕組みが大きく変わるものである。

この新システムは市町村の責任が後退したり、指定制の導入により過当競争が生じ、株式会社等の参入による保育の質が低下するのではないかと懸念の声も上がっている。

しかし、数日前に民主、自民、公明3党協議の中で、幼・保を一体化させた総合こども園創設を撤回し、現在の認定こども園を拡充することで決着するなど、新システムの方向性が見えない状況であり、今後の国の動向を見ながら対応したい。

## 国民健康保険のあるべき姿を問う

### 問

わずか1年で、国保税の再引上げが提案された。このままいけば、国保「崩壊」を招きかねない。

- ①資格証明書や短期被保険者証の交付状況は。
- ②財政は健全化するのか。将来の課題と見通しは。

### 答

中村市長

①現在、資格証明書の交付は、9世帯9人、短期被保険者証の交付は295世帯461人、このうち50世帯、89人については有効期限の長い、子ども短期被保険者証である。

②医療費をいかに抑制するかが大切であると考えるっており、疾病が重症化する前に早期発見、早期治療が図られるよう、特定健診率、特定受診率の向上に努めたい。

また、ジェネリック医薬品の利用促進による医療費抑制も重要と考えており、今年度からジェネリック医薬品差額通知を実施する予定である。

将来に向けての制度設計については、すべての国民を対象とする医療制度を一本化するのが望ましいが、まずは国の責任を明確にし、財政基盤の拡充強化を図り、都道府県を保険者とした国保制度の再編、統合も一つの方策ではないかと考えている。